simC News Letter
Sendai International Music Competition
2013年4月号
仙台国際音楽コンクールニュースレター

第５回仙台国際音楽コンクール【開催日程】ヴァイオリン部門：2013.5.25（土）~6.9（日）　ピアノ部門：2013.6.16（日）~30（日）

第5回仙台国際音楽コンクール開催記念ガラコンサート レポート

第5回仙台国際音楽コンクールの開催を記念したガラコンサートが、3月19日、20日に仙台市青年文化センターで行われました。今回のニュースレターでは、音楽ライターの片桐卓也さんによる公演のレポートをご紹介します。

はじめに～コンクールの新たなる始まり

コンクールは結果が出た時から再び新しく始まるのだ、と私は思っている。20年ほど前にエリーザベト、リーズ、ミュンヘン、ジュネーヴなどの国際的に有名なコンクールを取材していた時期がある。そして、優れたコンクールであればあるほど、そこで選ばれた演奏家が実際の演奏活動で活躍している。ジュネーヴで出会ったエマニュエル・パユ（ベルリン・フィルの首席フルート奏者として有名）はその代表的な例である。

だから、12年前の2001年にスタートした仙台国際音楽コンクールの覇者たちが集うガラコンサートに非常に関心があった。特に記念すべき第１回のコンクールの優勝者たちが、どんな風に成長しているのかを知るのが楽しみだった。そして今回3月19、20日に行なわれたガラコンサートでその演奏を聴き、それぞれがそれぞれの場所でコンクールの後にも研鑽を積み、よりスケールの大きな演奏家となっていたことに安心すると共に、彼らの成長ぶりがとても嬉しかった。

3月19日～第１回優勝者たちの演奏

第１日目のコンサートは、第１回ヴァイオリン部門の優勝者であるホァン・モンラの演奏からスタートした。彼はシベリウスのヴァイオリン協奏曲を演奏したが、この曲は難曲だと思う。古典派、ロマン派の協奏曲と違って、オーケストラの音にとても厚みがある。そしてオーケストラ自体が非常にダイナミックに躍動する（特に第３楽章）。それに対抗して独奏ヴァイオリンはとても繊細な音色を要求されている。

まず、第１楽章の最初の部分。まさに北欧の空気を感じさせるような所で、ヴァイオリンは様々な想いを秘めて歌い出す。ホアン・モンラの演奏はその場所から非常に美しい音色で、透明なヴァイオリンの音によって、憧れのような、あるいは悲しみのような世界を作り出していた。モンラの演奏は第１回コンクールの直後に東京で聴いた。とても生真面目な演奏で、聴いている方が少し肩に力が入ってしまうような感じがしたものだった。しかし、それは若さ（当時21歳）ゆえのことだったのだろう。今回のシベリウスは、楽章が進むに連れて、次第に熱を帯びるような演奏となり、シベリウスの音楽をダイナミックに表現していた。やはりそこにコンクール直後との大きな違い、経験と時間による成熟を感じた。

続いて、第１回ピアノ部門の覇者であるジュゼッペ・アンダローロが登場して、リストのピアノ協奏曲第２番を演奏した。リストらしい技巧と音楽性がギュッとまとめられた協奏曲で、それほど演奏時間が長くない割に、おそらくピアニストにとっては気が抜けない作品だと思う。

ホアン・モンラ
（第１回ヴァイオリン部門優勝）

ジュゼッペ・アンダローロ
（第１回ピアノ部門優勝）

スヴェトリン・ルセフ
（第１回ヴァイオリン部門優勝）

～プログラム～

【3/19】第１回仙台国際音楽コンクール優勝者
～あのファイナルの感動を再び！～

シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 op.47
ヴァイオリン：ホァン・モンラ
リスト／ピアノ協奏曲 第2番 イ長調 S125
ピアノ：ジュゼッペ・アンダローロ
・チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35
ヴァイオリン：スヴェトリン・ルセフ

指揮：現田茂夫
管弦楽：仙台フィルハーモニー管弦楽団

■お問い合わせ先／公益財団法人 仙台市市民文化事業団　仙台国際音楽コンクール事務局
〒981-0904　仙台市青葉区旭ケ丘3-27-5　Tel: 022-727-1872　Fax: 022-727-1873　E-mail: info@simc.jp　URL: http://www.simc.jp/

アンダローロは第１回参加時に19歳だったが、いまやすっかり大人の（失礼！）演奏家となっていた。オーケストラをバックに、その音量に負けないピアノのソノリティ（響き）を堂々と打ち出し、一方で、華麗とも言える音色を使いながら、リストならではの難しい部分をサラリと弾きこなして行く。安心して、その音楽の世界に浸る事が出来る演奏、という点で、アンダローロは素晴らしいピアニストに成長したと思う。活動も多彩で、ソロ、協奏曲だけでなく、室内楽でも優れた演奏家であるアンダローロ。これからも楽しみなピアニストである。

後半にはヴァイオリン部門の１位を分けたスヴェトリン・ルセフが登場して、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を演奏した。

ルセフはコンクール当時から頭一つ抜けた大人びた演奏だったけれど、その後指揮者チョン・ミョンフンの信頼を獲得して、現在はフランス国立放送フィル、ソウル・フィルなどのコンサート・マスターとして活躍すると同時に、パリ国立高等音楽院の最も若い教授としても後進を指導するなど、すでに一流演奏家としての道を堂々と歩んでいる。

そして、あるいは、それなのにルセフの面白い点は、実際の演奏での即興性だろう。特にチャイコフスキーの第３楽章で、こんなに速くて大丈夫だろうかと思うようなテンポで演奏を開始して、その速さの中でさらに挑戦するように面白いアーティキュレーションを取り入れたりする。彼の演奏に仙台市青年文化センターに詰めかけた聴衆は大いに沸いた。こんなことが出来るのも自信の現れ。現在のルセフの演奏は、世界のどこでも熱狂を呼ぶだろうと思った。

第１日目の演奏会は、全員が第１回のコンクールの時に演奏した作品をもう一度演奏するという点で、本当に興味深かった。

3月20日～第４回コンクールの優勝者たち

東日本大震災の前の年、2010年に行なわれた第４回のコンクールの覇者ふたりが、翌20日の演奏会に登場した。ヴァイオリンのクララ・ジュミ・カン、ピアノのヴァディム・ホロデンコである。そしてふたりとも第５回コンクールファイナルの課題曲となっているブラームスの協奏曲を演奏した。

クララ・ジュミ・カンの魅力は飾らない、素直な音楽性。それがそのまま演奏に反映されている。彼女が作品に寄り添う時、新鮮で、同時に温かな音楽がそこに現れる。第４回のコンクールの時も、安定したテクニックと美しい音色、そして誰もが引き込まれてしまうような歌心で聴衆を魅了していたが、今回のブラームスの演奏もそれと同じような温かさを感じた。

ブラームスの協奏曲もシベリウスと同じように、重厚なオーケストラの音の上で独奏ヴァイオリンは様々な表情を見せなければならない。堂々とした第１楽章、素朴さと熱情が同居した第２楽章、そして踊り出すような陽気さと懐かしさを感じさせる第３楽章。それぞれに個性の違う作品を弾くような難しさがあるけれど、クララ・ジュミ・カンの演奏はそのそれぞれの楽章の聴きどころを的確に表現していた。コンクールの時にはもっと熱くなるような共感を演奏で表現していたが、今は少し距離を置いて作品をしっかりとらえようとする意識の方が強くなっている。それは彼女らしいステップアップの仕方なのだろうと思う。それにしても、伸びのあるヴァイオリンの音色が美しく、それが彼女の大きな武器であることは間違いない。今後も世界的なステージで活躍していくと思うが、そこでもやはり音色、作品への共感を素直に表現する点などが彼女への評価を高めるだろうと思った。

後半にはピアノ部門の覇者ヴァディム・ホロデンコがブラームスのピアノ協奏曲第２番を弾いた。これももうひとつの交響曲と言われるくらい、オーケストラの音に厚みがあり、またオーケストラの書法もブラームスの円熟の極みである。そして、ピアノはと言えば、その円熟の中に若々しさと活気を持ち込みながら、オーケストラをリードして行くという大事な役割を果たさなければならない。ホロデンコの演奏は、第１楽章の始めから、少しゆったり目のテンポの中で、じっくりと音楽を紡ぎ出そうという意図がはっきりしていた。もっとピアノのソノリティが欲しいと思うところもあったけれど、あえて抑えて弾いていたのではなく、実はホロデンコはブラームスの書いた音楽全体を把握し、そこで必要なピアノの音量をオーケストラとのバランスの中で判断しつつ、その音楽を進めて行ったのだと思う。そこがホロデンコらしいところだと思った。常に作品への敬意を忘れず、その上で自分の想いを作品の中に込めて行く。それを理解する聴衆にとっては、ホロデンコの演奏は滋味溢れたものになるはずだ。彼もまだ様々なコンクールに挑戦し続けているようだが、その成否に関わらず、ずっと聴き続けて行きたいピアニストのひとりである。

さて、もうそろそろ字数も尽きる。震災後の第５回目のコンクールも間近に迫っている。どんな演奏家が登場するのか、そしてどんな演奏を披露してくれるのか。コンクールの重圧の中で、自分らしさを出すのはとても大変なこと。その中でも、伸び伸びした演奏を披露してくれる新鮮な才能に期待したい。

片桐 卓也（音楽ライター）

クララ・ジュミ・カン
（第４回ヴァイオリン部門優勝）

ヴァディム・ホロデンコ
（第４回ピアノ部門優勝）

～プログラム～

【3/20】第４回仙台国際音楽コンクール優勝者
～つらなる調べ。ブラームスの２つの協奏曲～

ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.77
ヴァイオリン：クララ・ジュミ・カン
ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 op.83
ピアノ：ヴァディム・ホロデンコ

指揮：現田茂夫
管弦楽：仙台フィルハーモニー管弦楽団

SENDAI INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION
■お問い合わせ先／公益財団法人 仙台市市民文化事業団　仙台国際音楽コンクール事務局
〒981-0904　仙台市青葉区旭ケ丘3-27-5　Tel: 022-727-1872　Fax: 022-727-1873　E-mail: info@simc.jp　URL: http://www.simc.jp/